

上毛スポーツ

KROSS×OVER15 来月5日 京東

キックボクシング 都木 高崎出身

大舞台に闘志

フットワーク武器

高崎市出身のキックボクサー、都木航佑(23)はVOSGYM JAPAN IIが12月5日に東京新宿で開催される大会「KROSS×OVER15」の67.5kg級決勝に向けてトレーニングを重ねている。好成績を収めれば、格闘技の大型イベントなどへの出場にもつながるだけに、都木は相手を分析することにはせず、自分の攻撃の形に相手を当てはめる。いつも通りやるだけ「冷静な闘志をのぞかせる」。

都木は5歳で地元の新規真空手に入門、中学では柔道部に入り腕を磨くなど、さまざまな競技に取り組みできた。「もっと強くなり」と2017年にキックボクシングを開始、着実に力を伸ばし19年にはプロデビューを果たした。以降、4戦4勝3KOと圧倒的な成績を収めており、12月の大会では初優勝を狙う。都



軽快なフットワークと強烈なキックを武器とする都木



大会に向けてトレーニングに取り組む都木(右)

たかぎ・こうすけ 1998年10月生まれ。高崎群馬南中・健大高崎高1・高崎健大中退。2017年秋にキックボクシングを始め、19年4月にプロデビュー。通算成績4戦4勝3KO。175センチ、67.5kg。

底知れぬ将来性
父の仁氏を想起

「新たな目標を」
五輪フェンシング金
見延(ネクサス)W杯へ抱負

手術後初の実戦



木をはじめ、さまざまなアスリートを指導するMARUYAMAの丸山逸平トレーナー(右)も「キック力は日本トップクラス」と太鼓判を押す。

ここまでの道のりは平坦ではなかった。中学2年の時、新規真空手で全国3位に輝いたが、この翌年、突然、両手首に痛みが走った。複数の病院を受診したが、症状は改善せず、その後、難病指定のキーンベック病と判明、競技を一時断念することになった。

ク病と判明、競技を一時断念することになった。医療機関では「治る見込みがない」と診断を受けたが、東京都の中国鍼灸院に通院。治療法が合ったのか、症状は3カ月で改善した。難病指定を受け、一時は未来を見失ったが、支えてくれた両親とともに「奇跡が起きた」と涙を流した。紆余曲折を経て、家族とともにたどり着いた今回の大舞台。10月の1回戦は2

手術後初の実戦... 見延(ネクサス)W杯へ抱負... 新たな目標を... 五輪フェンシング金... 底知れぬ将来性... 父の仁氏を想起